

第3期 経営計画 評価報告書 ≪2021(令和3)年度分 概要版≫

≪評価概要≫

2021(令和3)年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が続きましたが、前年度の経験を活かして、コロナ禍であってもできることを模索しながら事業継続を行った1年となりました。

こうした状況下で第3期経営計画の初年度となりましたが、計画の着実な推進に努めました。介護関連事業や一部の指定管理施設において、徹底した感染予防を継続するなど、努力を継続したことで前年度から一部改善の傾向がみられたものもありました。また、法人全体としてコスト削減や業務の効率化に向けた取組も継続出来たことは一定の成果が見られました。

今後は、2023(令和5)年の市・区社協の法人合併に向けた具体的取組を進めつつ、最適な法人運営、経営を目指し、計画の進捗状況を確認しながら着実に進んでいきたいと思います。

以上のことから、2021(令和3)年度における取組は、総合的には概ね計画どおりであったと評価するものであります。

第3期経営計画における2021(令和3)年度評価と概要については、以下に記載のとおりです。なお、評価については、所管する担当部署での進捗状況の確認などから、経営目標ごとに定量評価および定性評価を実施し【目指すべき方向】への進捗状況を総合的に「A」～「D」の4段階で自己評価したものとなっております。

*総合評価(第3期 経営計画より)

A:計画どおり B:ほぼ計画通り C:やや遅れている D:遅れている

経営目標		目標内容の性質	2021年度総合評価	実施内容、自己評価 今後の取組方針等
1 地域や関係者等との重層的な連携・協働を深める組織基盤強化			A	法人運営、地域関係者等の協働として、市・区社協の法人合併について具体的な検討を重ね、法人運営体制案について理解を得られた。2023(令和5)年4月の法人合併に向けて、最適な法人運営を目指していく。
(1)	法人運営、組織体制の最適化	定性	A	広報・経営戦略機能を強化として、広報および経営の双方を意識して活動を実施するとともに、PR強化等と各部門間の業務連携について、計画書を作成し組織全体で共有した。具体的な広報ツールも作成したため、今後も積極的に活用し、職員の連帯感の醸成を図るとともに、社協活動の見える化も推進していく。
(2)	地域や関係者との協働、広報力の強化	定性	A	
2 人材のさらなる確保・育成・定着			A	理念・使命の見える化および広報ツールとして働く職員の様子の動画を作成した。今後も内外に向け様々な場面、機会を通じて、理念、使命等の見える化を進め理解促進を図っていく。
(1)	理念、使命等の共有	定性	A	
(2)	多様な人材確保・育成とすそ野の拡大	定性	B	一部専門職数の充足には至らなかったが、人材の確保・定着の取り組みとして、多様で働きやすい職場環境の整備と職員満足度調査を実施。また、資格取得支援の拡充や職員紹介制度等を新設した。今後は満足度調査結果の分析を行い、改善に向けた検討を実施していく。人事評価制度については、人材育成基本方針への反映を引き続き検討していく。
(3)	人材の評価・定着	定性	A	
3 福祉サービスの質と効率性の向上及び安定的な経営基盤の強化			B	多職種連携、業務効率化を目指し、業務の棚卸を実施し、一部RPAを活用した自動化に着手出来た。今後もデジタル技術への対応や業務効率化を目指していく。
(1)	内部の多職種連携、協働の強化	定量・定性	B	
	① 多職種連携、協働強化	定性	B	
	② 業務の効率化	定量・定性	B	
(2)	経営基盤の安定強化	定量・定性	B	コロナ禍であっても安定的な各事業の継続性を確保していくために経費削減、PR強化を進め、連携を強化するなどの対応を進めていく。また、経営分析機能強化については、具体的に着手出来なかったことから、法人合併の状況を見ながらより効果的な手法等を検討していく。
	① 自主財源の活用・強化と各種資産の計画的な財務管理・積立	定量・定性	A	
	② 補助・委託事業等の継続性の確保	定性	B	
	③ 介護保険事業等の基盤強化	定量・定性	B	
	④ 経営分析機能の強化	定性	B	
4 不確実性の時代の中での地域共生社会の実現		定性	B	法人全体のBCPを策定し、それを参考にコロナ禍でも業務継続が可能となった。
	災害等に備える	定性	B	また、それらの経験を踏まえ、災害時等において通常勤務が困難な場合においてもテレワーク等によって業務遂行が可能な体制を整備できた。今後も必要に応じた見直しを図り、部門別BCP策定についても進めていく。